

第 306 回静岡エフエム放送番組審議会議事録

1. 日 時 平成 26 年 11 月 11 日 (火) 11:50~13:00
2. 場 所 静岡エフエム放送本社会議室
3. 番組聴取合評 [番組名] さいれんじのぬばたまの
[放送日時] 平成 26 年 10 月 18 日 (土) 26:00~27:00
[出演者] 西連地あゆみ
4. 出席者 [委員] 委員長 出口泰規 委員 小野晃司 委員 山本りさ
[会社] 代表取締役社長 祐嶋繁一
常務取締役放送事業本部長 上野豊
放送事業本部副本部長兼編成制作部長 久保田克敏
編成制作部副部長 寺田和史

5. 事務局報告

- 秋のイベント、公開放送などの実施状況と実施イベントの記録化について
- 上期中間決算について
- 中期経営計画の策定作業について

6. 番組審議

[対象番組] さいれんじのぬばたまの
[放送日時] 平成 26 年 10 月 18 日 (土) 26:00~27:00
[出演者] 西連地あゆみ
[番組内容] 和歌の枕詞「ぬばたまの」は、「黒」「夜」「夕」「暗き」「今宵」などにかかるもの。この枕詞「ぬばたまの」の次につながるトークを繰り広げる「さいれんじのぬばたまの」。西連地が普段思っていること、考えていること、妄想していることを語る番組。

[聴取・合評での主な意見]

小野委員

「どういう人が聴いているか」を意識して番組を制作しているかどうか大切だ。不特定多数の、たまたまラジオを聴いている人と考えた方がよいだろう。一方で「誰に」ということ以上に「何を」ということを意識して伝えていくべきだ。西連地さんの話し方ははっきりとし過ぎていて。上手で真面目で優等生的だが、色気がない。学校の放送部が昼に流しているような番組のイメージがある。もう少ししっとりとした感じがあってもよいだろう。番組構成としては、もう少し音楽の量を増やして気楽に聞き流せる番組にした方がよい。肩の力を抜い

てもよい時間帯だ。

山本委員

真夜中の番組らしくなく、言葉がはっきりしすぎている。「自分の部屋にリスナーを招き入れる」というコンセプトなら、リクエストに応えるばかりでなく、西連地さんの好きな音楽をもっと紹介すべきだ。「妄想ストーリー」のコーナーは、今回は男性と女性の一人ずつが登場人物だが、男性と女性のトーンをもっと変えて、メリハリをつけた方がよい。「今週の反省点」のコーナーは、反省しているという感じがあまりしない感じがかえってよい。「猿も木から落ちる」のコーナーでは、「ワンランク上の女性を目指す」というなら、取り上げた諺を実生活のどういう場面でどう使うのかを、具体的に紹介した方が親切だ。エンディングの西連地さんの感じは自然でよかった。番組が終わりになってきて、ホッとしている感じが出ていた。一人でよく頑張っていると思う。

出口委員長

西連地さんのトークは、はしゃいでいるわけでもなく、静かなわけでもなく、秋の夜長にはちょうど良いテンションだ。「妄想ストーリー」の内容は、本人が考えたのなら大したものだ。もう少し膨らませたら短編小説にもなるくらいだ。「今週の反省点」と「猿も木から落ちる」の2つのコーナーは、話の切り口が極めて似ている。同じような内容に聴こえる。「反省」をするなら、もっと大きな失敗での反省をしないと面白くない。「招き入れる」にしてはリスナーメールが多いがもっと西連地さんのトークを増やすことと、トークに起伏をつけた方がいい。

会社サイド

前回（第305回）では、パーソナリティのトークのテンポや2人の立ち位置、個性の見せ方などについてご意見をいただきました。いただいたご意見は番組作りの参考とさせていただきます。今回（第306回）ご指摘いただきました点につきましても、今後の番組作りに反映させ、改善するようにいたします。

次回開催日 平成27年1月13（火） 16:00～18:00を予定

以上

番組審議会委員長

出口 泰 規